



加盟  
団体



サンフレッチェ広島



JTサンダース



ワクナガレオリック



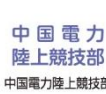
広島メイプルレッズ



広島ガスバドミントン部



NTT西日本ソフトテニス部



中国電力陸上競技部



コココーラレッドスパークスホッケー部



広島東洋カープ

トップス広島 事務局

〒734-0007

広島市南区皆実町2-8-42  
猫田記念体育館1F

TEL:082-254-2012

FAX:082-251-5712

URL:www.tops-h.net/

このQRコードから公式Webサイトへアクセスできます。



広島東洋カープ

## 祝 球団初 3 連覇！！

9月26日(水)広島東洋カープは、マツダスタジアムで行われたヤクルト戦に勝ち、球団史上初となる3年連続9度目のリーグ優勝を飾った。優勝マジックを「1」として3連覇に王手をかけて迎えたヤクルト戦。この日は初回からカープ打線が爆発。1回、丸佳浩選手の適時打で先制するとその後松山竜平選手、會澤翼選手の適時打などで一挙5点を奪った。5回、6回、7回にも得点を重ね先発野手全員安打で10得点を奪った。投げては先発の九里亜蓮投手が8回2安打無失点の快投を見せた。

最後は3年連続胴上げ投手となった中崎が締め、歓喜の瞬間を迎えた。そしてファンが待ち望んだ27年ぶりの地元胴上げ。輪の中心で9度宙を舞った緒方監督。「最高ですね。選手だけでなく、ファンの方も一緒になって胴上げをしていただいているみたいで、夢のような時間でした。ありがとうございます」と感謝した。

今季も力強い戦いで首位を独走したカープ。次は34年ぶりの日本一に向けた戦いが始まる。今年こそ日本一へ！



JTサンダース

## ヴコヴィッチ監督 合流！ 新チームスタート

ヴコヴィッチ監督、ティネコーチが7月下旬よりチームに合流、新たなスタートを切った。ヴコヴィッチ監督、ティネコーチは共に7月に発生した西日本災害を気にしており、8月2日(木)に行われたトップス広島の西日本豪雨義援金募金活動に対しても選手たちを快く送り出した。

新チームでの初の公式戦は国体の中国ブロック予選だった。チームは若手中心のチームで挑み、決勝で山口県チームに1セットを取られたが立て直し優勝した。

新チームとなったJTサンダースに期待したい！



西日本豪雨義援金募金活動をする選手たち



## 支えよう！スポーツの力で！

8月2日(木)、廣文館金座本店周辺の3か所でトップス広島街頭義援金活動を行った。このたびの西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」によりここ広島県では特に多くの方々被災された。トップス広島は、少しでも被災された方々の支えになるべく、この街頭義援金活動を行った。コカ・コーラレッドスパークスホッケー部からは、選手・スタッフ合わせて22名が参加した。総勢85名で行われたこの街頭義援金活動で、総額358,759円の義援金が集まった。これは、スポーツ王国広島であるからこそできることであり、人と人をつなげるスポーツの力というものを実感することができた。なお今回の街頭義援金活動で集まった義援金は中国新聞社会事業団を通じて被災地の支援に使われる。

ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

## 未来の広島ホッケー界を担う子どもたち！

公益財団法人広島県体育協会が主催するスーパージュニア育成プログラム2018を8月4日(土)、コカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアムで開催した。今回は、第2回体験プログラムとして、ホッケー教室を行った。なお、このプログラムはトライアル(選手選考会)で合格した、身体能力の高い小学5・6年生が対象となる。

約50名の子どもたちに、基本的な動作からミニゲームまで丁寧に指導を行った。ミニゲームでは、選手を交えて次につながる反省を行うことで、より実践的な活動となった。飲み込みの早い子どもたちとともに時間を過ごすことで、選手たちも良い刺激を受けたのではないだろうか。

この活動をきっかけに、未来の広島スポーツ界を担う選手が誕生することを期待したい。



## 堀川、木村、近藤ら3選手が世界で金メダル

世界学生選手権大会、決勝が8月5日(日)クロアチアで行われた。

広島メイプルレッズからは、堀川 真奈、木村 有紗、近藤 万春(まはる)の3選手が選出された。決勝の相手は今大会唯一予選グループで敗れているブラジルだ。

日本は前半11-10の1点ビハインドで後半に入るも、今大会絶好調の近藤選手の速攻などで一気に逆転し16-12と4点差をつける。

攻撃の手を緩めることはなく、最後は27-19の大差をつけて優勝を果たした。

また、2018年6月28日(木)から7月8日(日)にかけて、西日本を中心に甚大な被害をもたらした西日本豪雨災害。メイプルレッズの選手らも復興支援活動に参加している。

スポーツの力、団結する気持ち、を強く持ち、1日でも早い復興を目指したい。



## 第24回世界選手権大会！！

7月30日(月)から8月5日(日)にかけて、クロアチア・リエカで第24回世界選手権大会が行われた。日本は韓国、ルーマニア、チャイニーズタイペイ、ポーランドを含むグループBだった。湧永レオリックからは、後藤悟選手と庄子直志選手の2名が日本代表チームに選ばれた。

初戦チャイニーズタイペイと対戦した日本は29対25で勝ち、2戦目はルーマニアに29対25で負けてしまった。しかし3戦目と4戦目でポーランドと韓国に勝ちグループBを1位通過した。準決勝・決勝戦にまわった日本は、まずクロアチアと対戦するが前半を18対14のビハインドで折り返し、後半は10対13と勝ち越すが惜しくも及ばなかった。3位決定戦にまわった日本はポルトガルを20対12、後半を9対12の29対24で下し銅メダルを獲得した。

日本の代表選手として戦った2人の活躍が今後も期待だ。



## リーグ戦残り 7 節 4 度目の優勝に向けて

明治安田生命 J1 リーグ首位のサンフレッチェ広島は、9 月 22 日（土）にリーグ 3 位につける FC 東京とエディオンスタジアム広島にてリーグ戦第 27 節を戦った。試合開始早々のピンチを GK 林卓人の好セーブで乗り切ったサンフレッチェ広島は、前半 18 分、混戦の中から、FW パトリック選手の今季 20 得点目となるゴールで先制し前半を折り返したが、後半立ち上がり早々の 49 分、FC 東京 FW リンス選手に同点ゴールを奪われた。その後は両チーム激しい攻防を繰り返すなか、追加点を奪うことが出来ず、引分に終わり、勝点 1 を積み上げた。リーグ 2 位につける、川崎フロンターレとは勝点差 3 まで詰められたが、城福監督は「いかに自分たちが勝ち点を積み上げていくか。そこにフォーカスしていく。ここまで独走で来たと言っていい首位の我々がこうして対策されることが、世の中の的には面白いのかもしれないけど、勝ち続けていきたい」とコメント。

リーグ戦も残り 7 試合となり、対戦相手がサンフレッチェ広島に対し、いつも以上のモチベーションで挑んでくることが考えられるが、これまで同様、一戦必勝で勝ち点を積み重ね ICHIGAN となり、自分たちの力で 4 度目の優勝に向かってほしい。

## 広島から世界へ

9 月 11 日（火）に行われたキリンチャレンジカップ コスタリカ戦に青山敏弘選手、佐々木翔選手が選出。青山選手はゲームキャプテンを務め、佐々木選手は日本代表初選出ながら、先制点に絡むなど、サンフレッチェ広島の代表として、堂々とした活躍をした。



## 下田選手、準優勝！！

9 月 1 日（土）～4 日（火）に第 61 回全日本社会人バドミントン選手権大会が高知県南国市立スポーツセンターで開催され、シングルスにおいて下田選手が準優勝に輝いた。暑い中に行われた厳しい戦いは 2 回戦、3 回戦と順調に勝利し、山場の準々決勝も 2 - 1 で制し、準決勝まで進んだ。準決勝も際どい戦いを制し、2 - 0 のストレート勝ちで決勝に進んだ。決勝では鈴木選手（東京）と当たり惜しくも優勝を逃してしまった。しかし、今大会は今年のベスト 8 を上回る成績を収めた。混合ダブルスのでは、江藤・高階（北海道）組がベスト 16 という結果となった。最終日まで白熱した戦いとなり、今後に期待の持てる大会になった。また、9 月 15 日（土）～16 日（日）に鳥取県米子産業体育館で開催された第 61 回中国地区総合バドミントン選手権大会では濱北選手がシングルスで準優勝という結果で年末の全日本総合バドミントン選手権大会の切符を手に入れている。



## アジア大会へ NTT 西日本ソフトテニス部から 2 選手が選出！

8 月 20 日（月）。ホテルセンチュリー21 広島にて、アジア大会のソフトテニスで日本代表に NTT 西日本ソフトテニス部から選出された長江光一選手と丸中大明選手の壮行会が行われた。

長江光一選手と丸中大明選手が NTT 西日本ソフトテニス部を代表してアジア大会へ出場した。ソフトテニスは 8 月 28 日（火）から 9 月 1 日（土）の 5 日間で行われた。

長江選手はこの大会に向けて、「テニス人生の集大成のつもりで体を追い込みたい、金メダルを目指して戦う。」と語った。また、丸中選手は「金メダルを獲得して、広島県に日本にいいニュースを報告したい。その為に、チーム一丸となって全力で戦う。」と語った。

アジア大会での成績は、長江光一選手がシングルスでベスト 8。また、長江光一選手と丸中大明選手ペアで団体戦に出場し、日本チームの銀メダル獲得に貢献した。

また、9 月 8 日（土）と 9 月 9 日（日）の 2 日間静岡県草薙総合運動場庭球場で行われた第 46 回全日本社会人ソフトテニス選手権大会でも長江光一選手・丸中大明選手のペアは、アジア大会の勢いそのままに優勝を果たした。

アジア大会と全日本社会人ソフトテニス選手権大会で好成績を残した長江光一選手と丸中大明選手。今後チームを引っ張る存在として、チームを大きく飛躍させてほしい。

## 岡本選手MGCの出場権獲得！

8月26日（日）北海道札幌市にて2018北海道マラソンが開催され中国電力陸上競技部から岡本直己選手、清谷匠選手、兼実省伍選手が出場しました。今大会は2020年東京オリンピックマラソン代表選考会の出場権（通称：MGC（マラソングランドチャンピオンシップ））を獲得できる対象大会であり、全国から多くの実力者が集結しました。

※MGC出場権獲得条件（対象：日本人のみ）

条件：1位 2時間15分以内  
：2位～6位 2時間13分以内

レースはペースメーカーがMGC出場権を獲得することでできる2時間13分を切るペースで先導します。岡本選手は常に集団後方に待機することで、余計な力を使わないことと、確実に給水を摂ることに専念し、後半の勝負に向けて態勢を整えます。

その後、25k地点でペースメーカーが外れ、トヨタ自動車の早川翼選手がペースを上げたことで、大きな集団が一気に崩れます。岡本選手はそのタイミングで少し集団から離されてしまいますが、冷静に対応し、30k手前で先頭集団に追い付きます。しかし、35k手前で再度集団から遅れてしまい苦しい走りになります。いつもはこの苦しい場面で後退してしまいますが、今回は違いました。驚異的な粘りで再度先頭集団に追い付き、態勢を整えます。そして残り5k地点の給水箇所では他の選手が少し岡本選手と間を開けたところを見逃さず、一気にペースを上げ勝負を掛けました。優勝後の会見で「残り5kが一番楽だった」と言ったように、ぐんぐんとペースを上げ、後続を30秒近く離して見事マラソン初優勝を果たし、併せてMGC出場権を獲得し、ダブルで喜びをかみしめました。

中国電力入社12年目の岡本選手。そしてマラソン挑戦12回目にして初の栄冠。長年の苦勞が実を結びました。次はいよいよ東京オリンピック選考会（MGC）です。2019年9月15日開催予定のため、まだまだ時間があります。苦勞して掴んだチャンスをもものにするため、これから1年間、また挑戦の時が始まります。チーム最年長のベテランにまだまだ期待が掛かります。がんばれ岡本選手！

○成績

1位 岡本 直己（中国電力） 2時間11分29秒 ※自己新記録  
2位 ポール クイラ（コニカミノルタ） 2時間11分58秒  
31位 兼実 省伍（中国電力） 2時間22分26秒  
清谷 匠（中国電力） 途中棄権

各チームの1押し選手を紹介します。

### ☆選手紹介コーナー☆



#### NTT 西日本ソフトテニス部

広岡 宙選手

生年月日 1999年6月2日

身長 171cm

血液型 A型

出身地 兵庫県

↓担当者からのコメント

全てのプレーがハイクオリティー、期待の高卒ルーキーです。破壊力抜群のスマッシュと、会場一目立つ“デカイ声”に注目してください。



北海道マラソンに挑んだ選手たち



走る岡本選手



#### ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。